



JEG ニュースレター 156号

www.jegschweiz.com

2016年6月8日発行

小さな証

神に仕える喜びを知ってから、より聖書を理解し、若き音楽家の証です。 P2

SLIM

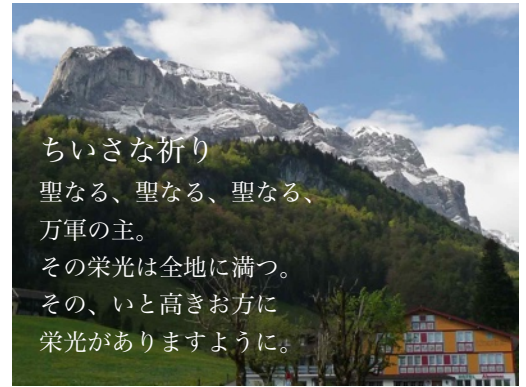
今年の第5回SLIMは場所をイタリアから南独リーベンツェルに移して開催されました。 P3

新教会員

教会の誕生を祝うペンテコステ伝道礼拝の中で、3名の入会式が執り行われました。 P3

新任牧師と伝道師

この度、ヨーロッパの三つの日本語教会に新任牧師ならびに伝道師が与えられました。3人の自己紹介です。 P4、P5



ちいさな祈り
聖なる、聖なる、聖なる、
万軍の主。
その栄光は全地に満つ。
その、いと高きお方に
栄光がありますように。



わたしが父のもとから遣わす助け主、すなわち父から出る真理の御霊が来るとき、その御霊がわたしについてあかしします。 ヨハネ15：26



”渡り鳥”が飛び立った日

ユースバンド”渡り鳥”がスイスJEG歴史初めて、礼拝のなかでワーシップをリードし、ともに主を賛美しました。

ちいさな証

本当に価値あることの為に

津田正明

スイス日本語福音キリスト教会会員



クリスチャンになって2年と少しになる。教会に行くとCSで学んだり、礼拝に参加して聖書を開いてメッセージを聴くという意味では、1歳から教会に通っているが、自分が本当の意味で神様に信頼してお委ねして歩み始めたのが2年前という意味である。

それは単純に洗礼や信仰告白をしたという意味ではなく、日曜日以外も日々神様と共に歩む(日曜日以外はノンクリスチャンと変わらない生活をするのをパートタイムクリスチャンという)ようになり、生活の、行動の、言動の、信念の中心が神様になったということである。それはルールで自分を縛り上げているわけではない。お金、名誉、世間体、物質的自己充足、心理的自己充足といったものがかつての行動、思考の原点となっていたのが、神様になったわけだが、かつての自分と今の自分との間での葛藤があり、行ったり来たりしては祈る日々であるが、それは救われている証拠だというメッセージを聞いて安心したのも2年前である。

神様に仕える喜びを知ってからは、より聖書を理解し、御言葉を蓄えて、用いられやすいものとして備えるようになった。神様のことをもっと知りたい、愛したいというのももちろん大きな動機である。今は毎日午前中や移動中に、中川健一牧師のメッセージを2つ3つ聞いて、聖書の理解を深め、御言葉を蓄えている。

かつての自分を思い返してみると、自分の人生のフレバーの様な感覚で、選ぶライフスタイルといった感じでクリスチャンをしていた様に思う。つまり、自分の

物語に神様を、聖書の御言葉を自分の都合で取捨選択し、都合の悪いところは受け流していた様に思う。本来キリストの内に歩むと決めたとすれば、アダムから始まる聖書の時系列に天に携挙されるのを待つクリスチャンとして、自らの物語が組み込まれるのに、自らの矮小な世界観に神様の物語である聖書の壮大な世界観、歴史観を取り込んだ気になって、聖書あーだこーだと言っていた。



御言葉はその前後の文脈を読まないで、誰に対しての御言葉なのか判断できないのに、勝手に切り出して適用し、これが聖書だという様に論じていたのだから、赤面ものである。そしてクリスチャンだと言いながら、伝道をする気がなかった。今となっては伝道しているのだが、今思うことは、信仰に確信がないと伝道はできないと思う。

例えば、よく知られていないが安全な保険会社のコースに、保険料が無料で、全ての事故病気に対し、金額の上限なく最高の医療対応を受けられるという保険をコツコツ教えてもらったとすれば、自分の身内や大事な友人に教えないでいるだろうか？

本当の恵みの素晴らしさを知っていれば、伝道のモチベーションは自然と湧いてくるものだ。かつて今日何を着るか、誰と何を食べるか、どのテレビを見るかなどと考えていたが、クリスチャンとなった今は天に本籍があって、地上では寄留者であるから、完全に人生観が違う。本当に価値あることの為に歩むことができる様、日々祈り、献身の喜びの内を歩む日々である。



Speicher / Appenzellerland



1、世界を震撼させた東北大震災から今年で5年。スイスJEGでは毎年3月に東日本大震災記念礼拝を持ち献金を被災地及びボランティア団体に送ってきました。今年は、4月10日、原発に一番近い教会・福島第一聖書バプテスト教会から佐藤彰牧師を招いて記念

礼拝を持ちました。

スイス各地の日本人会へ佐藤彰牧師の来瑞を知らせた結果、20余名の新規訪問者を迎えました。福島第一原発事故のため日本各地を教会員と共に転々と流浪した佐藤牧師でしか語れない講演メッセージはスイスJEGのメッセージ専用サイトでお聴きいただけます。<http://jeg.meielisalp.ch> また、流浪の教会のドキュメンタリーはこちらをクリックしてご覧いただけます。[テレメンタリー2013「3.11」を忘れない 原発に一番近い教会](#) - YouTube

翌日、4月11日午後には、教会員のヘス明美宅に18人が集まり、佐藤彰牧師ご夫妻を囲み、大震災に伴う原発事故のため逃避行を余儀なくされたキリスト者としてどう生きたかの貴重なお話を聴く機会が与えられました。



ヘス宅での家庭集会

2、5月8日に、スイスJEGでは一週間早くペンテコステ伝道礼拝を持ちました。この教会が生まれた日に、マイヤー牧師は“信仰はなぜ必要か”をテーマに伝道的な説教をされました。そして、スイスJEG22年の歴史で初めてコースバンド“渡り鳥”が、礼拝のなかで賛美をリードし、会衆とともに主を讃美する記念すべき日ともなりました。この日の“渡り鳥”の演奏は



スイスJEGのHP日曜学校Youthサイトでご覧いただけます。<http://www.jegschweiz.com/日曜学校-youth/>

また、この日、教会は3人もの兄姉―若きベース奏者・津田正明兄、そして関東と四国で12年間(1992-2004)宣教師として、日本を愛し、日本人の救霊のため尽力されたミュージーラー・トマス兄とミュージーラー・カリン姉を新教会員として神の家族に迎える幸いを得ました。



5月16日(月) に会堂をお借りしているMitternachtsrufで、JEG主催のパーベキューパーティが開催されました。マイヤー牧師のショートメッセージもあり、18人の新来者と一緒に賑やかで楽しい午後になりました。

3、5月22日(日)の説教は、夏のキリスト者の集いのために信徒が霊的にも整えられることを目的とした“み国を待ち望む”シリーズに戻り、“み国に先立つし”をマタイ24章から解きか

しをされました。マタイ24章は、いわゆる“オリーブ山の説教”と呼ばれ、マタイの福音書ならびに新約聖書のなかでも難解とされている箇所、世の終りと再臨をイエス様自身が弟子に預言されたものです。“み国”すなわちイエスが王として統治されるメシア的王国/千年王国は再臨に続くものですが、今日の教会では、終末や再臨について語られることはあまりありません。この夏、特別講師として来独される中川健一牧師は“終末論を学ぶことは、間違いなく今を生きる力となります。”とされています。このマイヤー牧師のメッセージ(日独語)はスイス日本語キリスト教会のHPの礼拝メッセージサイトwww.jegschweiz.com/礼拝メッセージ-audio-video/で、説教に使われたパワーポイントの資料を手元にしながら録画をご覧いただけます。



4、今回で5度目の開催となったSLIM(Servant Leaders In Ministry) Conferenceは、今年は南独モンバッハタール/リーベンツェラー・ミッションで4月14日から17日まで、70余名の参加者を得て開催されました。SLIMは次世代を担うキリスト者が、主への奉仕の働きのため、サーバント・リーダー(仕える者)として、キリストの体を立ち上げる「成熟した者」(エペソ4:12)として整えられることを目的としたリトリートです。今年は、特別講師に



聖契神学校校長・鶴見聖契キリスト教会牧師の関野祐二先生をお迎えし、ヨーロッパに住むクリスチャンの霊的成長と求道者が福音に触れる場として、共に集い、励まし合い、学び、祈る場として豊かに用いられました。なお、来年はSLIMはお休みとなり、次期開催は再来年となります。参加出来た事に大変感謝しています。(スイスJEG ヘス明美記)

5、無牧であったケルン・ボン日本語キリスト教会に佐々木良子牧師が4月に赴任されました。ミラノ賛美教会・内村伸之顧問牧師として牧会されていたオランダ南部キリスト教会には、SLIMの実行委員長としてお働きになっていた増谷啓伝道師が4月10日に就任され、同じく内村牧師が顧問をされていたバルセロナ日本語キリスト教会にも猛烈ビジネスマンであった北島嗣郎(しろう)伝道師が、4月23日に就任されました。

三人の自己紹介が4-5ページに掲載されています。(北島伝道師の紹介は証から抜粋させて頂きました。全文をお読みにになりたい方はスイスJEG編集部にご請求下さい。)新牧者を迎えた3つの教会に神様の豊かな祝福と導きがありますようにお祈りします。

6、オーニング宣教師、クッツ・プリスキラ宣教師、ラシェンコ・ベラ宣教師、マルティン・フィリップ祐子宣教師からのRundbrief、工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ号、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、ケルン・ボン日本語キリスト教会月報、ルーマニア川井牧師の週報、ブリュッセル・ミサ便り、パリ・プロテスタント日本語キリスト教会パルタージュ、イザール通信、夜越山からの便り、ミッション“宣教の声”、ローゼンクランツNLが届いています。お読みにになりたい方は、松林までご連絡ください。



日出ずる国から

神様からのプレゼント
福島第一聖書バプテスト教会の
佐藤彰牧師ご夫妻から



スイス日本語福音キリスト教会の皆様、この度は大変お世話になりました。

ドイツ縦断の二週間 にわたる講演旅行の後、日曜日の午後にスイス入りした私たち

に、礼拝後の愛餐会やご家庭でいただいた日本食は、胃にやさしいものでした。めずらしいスイス料理も忘れられない思い出です。

礼拝と月曜の家庭集会には数多くの新来者があり、主の御名をあげました。



チャップリンの像の前で

火曜日から二日間はアルプスの少女ハイジを思わせる各地をご案内いただき、ヘッパンやチャップリンが晩年をこの国で過ごした理由がわかるような気がしました。

正味三日強のスイス滞在でしたが、皆様のおかげで内容の濃いスイス旅行となりました。東日本大震災からちょうど五年目の、神様からのプレゼントだと受け止めています。尊い献金も、ありがとうございました。

聖書から学び合う交わり

聖書を読む会の
鈴木喜香姉から

スイスそしてヨーロッパにお住いの愛する皆様。あなたの周りの、日本語の交

わりを求めている方々を誘って、聖書を学びませんか。

「聖書を読む会」では聖書を学ぶための手引を出版しています。

私たちが出版している手引は、聖書を学ぶための質問集です。手引の質問に沿って、皆で考え、語り合うことができます。もちろん、一人のデボーション用として使うこともできますが、



聖書を読む会スタッフ：
OCCの新しい事務所で

グループで学び合うと意外な発見があります。同じ記事を読んでも、人は十人十色ですから、違った視点で読み、学びとるものです。また、心の深いところで感動をもって読まれ、教えられたことは、その人の生き方を変えていきます。

互いの発言に耳を傾け、ともに聖書から学び合う交わりは、互いの信仰や価値観を理解し、共感し、祈り合う友情を深めるときになります。

人前で発言することに慣れていない私たち日本人には、沈黙が続いてしまうことがよくあります。しかし、『主催する側が「新しい文化を作り出していくのだ」という「意識」を持つことが肝心だと思う…』と、長年アメリカで手引を使って伝道・牧会している先生が語っておられます（「通信」110号）。発言することが求められる西洋社会で生活されている皆さん、互いに励まし合って、聖書を学んでみませんか。

また、聖書の基本的なラインから逸脱して聖書を読み込むことは、どのような場合にも禁物です。その点、手引はガイドの役割を果たしているといえるでしょう。専任の指導者が常駐することの難しい地域では、このような学び方がとても有効です。

一度、手引を手にとってみてください。ホームページ（<http://syknet.jimdo.com>）では、お試し版をダウンロードすることができます。また、機関紙「通信」のバックナンバーを読むこともできます。



ヨーロッパの日本語教会／集会から

主の計画のなかで
ケルン・ボン日本語キリスト教会は
佐々木良子牧師から



はじめまして。3月27日のイースター礼拝を日本で終えて、4月より日本基督教団の派遣宣教師として着任いたしました佐々木良子と申します。

主なる神さまの憐みと教会の方々のお祈りと「至れり尽くせり」のお助け、そして日本で支えてくださっている大勢の方々によって、ドイツ・ケルンの地で2ヶ月目の生活を無事に過ごすことができました。小鳥のさえずりと共に快適に目覚めさせて頂いる毎日です。新緑の素晴らしい季節を味わいながら、神さまがこのように自然を与えてくださっていることに改めて感動すると共に、心から感謝する日々を送らせて頂いております。

このように欧州の地に導かれたことは、主のご計画の内に一步一步積み重ねられたものと思われています。以前より宣教の幻は与えられ、在欧日本人宣教会の祈り手として参加させて頂いておりました。

更に欧州の日本語教会の先生方との個人的なお交わりや、2013年には日本基督教団から派遣されてハンブルクで行われた「キルヘンターク」に参加したことなど。そして前任地でもあり、私のドイツでの宣教活動・生活を支えるために中心となって頂いている小松川教会でオランダの国教会からパイプオルガンを購入し、奉獻感謝のためにオランダにでかけたこと。

それに併せて2014年にベルギーで行われた「キリスト者のつどい」に参加させて頂いたことなどです。キリスト者の



集いではスイス日本語福音キリスト教会の方々にも大変お世話になり、信仰の友ができたことも大きな喜びでした。



ケルン・ボンの愛する兄弟姉妹と

更にこれからの主のご計画がどのように展開していくのか大いに期待しております。留学も海外生活の経験もなく、語学力も能力もない、「ないないづくしの私」をどのように用いてくださるのでしょうか。主は最善をなして下さることは確実ですから、信頼し謙遜に従って参りたいと思っております。お祈りの片隅に覚えて頂けると幸いです。これから主にあるお交わりをよろしく願いいたします。

神の正義と愛

オランダ南部キリスト教会は
増谷啓 (あきら) 伝道師から



皆さん、こんにちは。オランダ南部日本語教会の伝道師として、内村先生より按手を授けていただいた増谷啓

と申します。

私は18年前イギリスの大学に通っている時に【神の正義と愛】を信じる決意をしました。その後就職のため移り住んだドイツ・シュトゥットガルトの日本語教会で会計役員としてご奉仕をさせていただいていました。その頃の礼拝は月に一度だけで、次第にそのことに渴きを感じるようになりました。

「礼拝頻度が低い理由」を自分の外に求めていましたが、結局は自分がまず変えられる必要に気づかされました。内村先生が神学を通信で学ばれて牧師となられたことを見ていたので、私もまずは神学を学ぶことにしました。そして働きながら3年の学びを終え、礼拝も月二回となり、シュトゥットガルト日本語教会で

伝道師として仕えさせていただくことになりました。

全ては順調に見えましたが、なんと勤め先のリストラを機に転職することを余儀なくされました。不思議な導きでオランダ・マーストリヒトで働くことになり、内村先生が毎月いらっしゃるオランダ南部日本語教会に通うようになりました。

内村先生のメッセージを英語に逐次通訳する奉仕を



4月10日の就任式

させていただくようになりました。単身赴任が二年続きましたが、昨年の夏より愛する家族とも一緒に暮らし始められるようになりました。そしてそろそろ正会員となって教会に腰を落ち着ける必要を感じていました。そうすると教会からも伝道師として受け入れたいという思いを伝えていただきました。

まだ生活が完全には落ち着いていなく家族にも苦勞をかけっぱなしですが、初心を新たに、この素晴らしいチームの一員として【正義と愛】を追い求めていきたいという思いを与えられ、任を受けさせていただきました。

まだまだ至らない者ですが今後ともよろしく願いいたします。

本当の上司を見つけて

バルセロナ日本語キリスト教会は
北島嗣郎 (しろう) 伝道師から



皆さま、初めまして。私は、スペインに住んでいる北島です。

2013年3月まである日本企業で働いていた関係と家内がスペイン人だということで、スペインには合計で13年住んでいます。

仕事第一の猛烈ビジネスマンだった私は、2013年1月、前立腺肥大のため手術を受けましたが、そこで生死の境を彷徨う経験をいたしました。手術後、我に帰り、一体私は何をしているのだ?このままこのように人生を生きて行くのか?そ

れはあまりにもむなしくないか?この人生の最後には何が待っているのか?死んだらどうなるのだ?と自問しはじめました。

何と説明して良いのかわかりませんが、確かに私の頭の中でこの言葉が鳴り響くのを感じました。そして「こんな罪人の私を許して下さい」と祈ったのでした。通常でしたら、赦されることはないほど、神様から離れているのに、私のために地元の大阪の教会にも母と共に祈ってくれている人がいる、そして何にもまして、主イエス・キリストが十字架の上で、「父よ北島を許して下さい。北島は何をしているかわからないのです」と言って、私の為に流してくださった血潮による贖いの事実を確信しました。



バルセロナ日本語教会の愛する兄弟と

神様は私に入院という機会を与え私を低いところまで引き下ろされ、そして「仕事」という私が絶対の自信があった領域で私を打ち砕き、へりくださせ、そして探し出してくださり、十字架の主イエスの血でこれまでの私の罪を許してくださったことに気付いたのです。

現在は、スペイン人の教会で、二人の牧師先生の下でカバン持ち研修とサッカー伝道、病院伝道、イタリアの内村先生の下でバルセロナ日本語教会で奉仕をしています。2013年4月に初めてバルセロナ日本語教会の礼拝へ行きました。小さい信徒の集まりですが、まるで初代教会を彷彿させるような恵まれた教会です。内村先生の働きにより私たちは主の家族として祝福されています。最近、スペイン人の方の礼拝への出席もあり、主がこの教会の役割を啓示されているのかなあと感じています。

最後に 2013年に献身の決意をしてから3年が経ちました。この4月には内村先生によりバルセロナ日本語教会の伝道師としての按手を受けました。3年前には想像すらしていなかった展開です。主のなさることは私の創造をはるかに超えています。この主に頼って生きていきたいと願っています。「私はついに自分の本当の上司を見つけたのです。」



SLIM16 に参加して

神の人生への介入

津田和明

スイス日本語福音キリスト教会



今年で3度目の参加となった。このカンファレンスは自分が信仰に入るきっかけとなった重要な聖会なので、毎年参加している。

今回特に印象に残ったのが、私たち現代に生きる異邦人クリスチャンは、聖書の時間軸、世界観、物語の延長線上にいるということだ。時間は延々とただそこにあるのではなく、主なる神の意志がそこにあって、一つの時間軸上を携挙、再臨に向かって動いている。

イスラエルが国家となり、他の国と契約を結べるようになるのと聖書にあった様に、実際の歴史もその様に終末に向かって進んでいる。私たちは私たちの人生という物語を生きており、未信者の方が死という終点に向かう物語を生きるのに対し、死後の天の御国での永遠の命を含めた物語を生きている。が、地上での物質的価値観に囚われすぎると、そちらがメインになってしまい、自分の地上生涯物語に聖書の物語を取り込むという、立場が逆転してしまっているという話だった。

また、主に献身する人生についてのメッセージも印象に残った。個人的には、主に仕える喜びについての再認識がありました。地上でも様々な喜びがあります。人からの名誉、綺麗な景色を見

る、美味しいものを食べる、いい服や車を手に入れる、理想的なパートナーを見つけるなどです。

ですが、魂が震えるような感動と涙の喜びは、人間の作った物質では得られないと思う。主に仕える事で得られる喜びと感謝は、人間の欲を埋める喜びとは別次元にある。それぞれが神様から賜物を与えられ、それぞれの形で主なる神のご計画の働き手となって、主に用いられることで得られる喜び。僕の場合は賛美する喜び、そして



今回はユースの証し会での奉仕の喜びがあった。それぞれの若い信徒の証し、そして先輩信徒、求道者の上に主がしっかり働いておられるなということを確認する非常に恵まれた時間となりました。

神がそれぞれの人生に介入されてそれに応答して出来る物語には力と感動があった。そして求道者の仲間が主に立ち返る喜び、これは一塩のものである。そして毎年感じるのが、一年ごとに会うたびにそれぞれの兄弟姉妹がそれぞれの教会や土地で大いに奉仕し、成長して行っているなという実感だ。

来年のSLIMは諸事情で休みだが、SLIMのユースでの活動も予定してい

る。若い世代だからこそ出来る伝道や奉仕があると、それぞれが主の霊に満たされて、期待感に溢れている。

神の国の価値観

トムセン・チャーリー

スイス日本語福音キリスト教会



先生の話やスモールグループを通して色々学んだり、去年出会った友達と再会したり、新しい友達を作ることも出来

て、とても恵まれました。

学びの中で特に心に残ったのは、神の国の価値観と私たち人間としてのこの世界での役割の事です。会場は森の真中で豊かな自然に囲まれていて、とても綺麗で、また学んだことを静かに振り返ることができて、とてもよかったです。

二回もSLIMに参加できたことを神様に、そして、

サポートしてくれた教会のみなさんに感謝します。来年ないのが残念ですが、次回、行けるときを楽しみにしています。

